

いごいのみぎわ 天路歷程 ジョン・パニヤン

第47話

2022年10月9日～10月15日 各家庭でのディボーション用テキスト

その上、彼らの王は彼らが口笛を吹けばやって来るのです。聞こえない所にいることは決してありません。いつでも負かされるようなときには、彼はできれば助けに来ます。彼については次のように言われています、「つるぎがこれを撃っても、きかない、やりも、矢も、もりも用をなさない。これは鉄を見ること、わらのように、青銅を見ること朽ち木のようなものである。弓矢もこれを逃がすことができない。石投げの石もこれには、わらくずとなる。こん棒もわらくずのようにみなされ、投げやりの響きを、これはあざ笑う」。**【ヨブ 41:26 - 29】**このような場合、人には何かできましようか。なるほど人があらゆる場合にヨブの馬を持ち、それを乗りこなす技量と勇気とがあるならば、めざましいことをするかもしれません。「その頸はいなづまの粧いをし、いなごのように恐れることなく、その鼻あらしの威力は恐ろしい。これは谷であがき、その力に誇り、みずから出て行って武器に向かう。これは恐れをあざ笑って、驚くことなく、つるぎをさけて退くことがない。矢筒はその上に鳴り、やりと投げやりと、あいきらめく。これはたけりつ、狂いつ、地をひとのみにし、ラッパの音が鳴り渡っても、立ちどまることがない。これはラッパの鳴るごとにハアハアと言い、遠くから戦いをかぎつけ、隊長の大声およびときの声を聞き知る」。**【ヨブ 39:19-25】**

しかし、君や私のような徒歩で行く者は、敵に出会いたいと望んだり、また他人が失敗したのを聞いたとき、自分ならもっとよくやれるかのように高言したり、自分の勇気を考えて悦に入ったりすることのないようにしましょう。そういうのはたいてい試みに会うと参ってしまうものですからね。前に私か言ったペテロをご覧ください。彼は大見得を切ろうとしました、本当に。虚栄心に駆られて言ったように、すべての者にまさって主に尽し、味方しようとしてしました。が彼ほどこれらの悪党に打ち負かされ、打ち砕かれた者がありましたでしょうか。

だから、このような強奪が王の街道で行なわれると聞くと、私たちがなすにふさわしい事が二つあります。第一に、武具に身を固めて出かけ、必ず楯を持って行くこと。あのよう勢いよくレビヤタンに打ってかかった者がそれを屈服させることができなかつたのは楯のないためなのです。それで練達の者が言いました、「その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう」。**【エペ 6:16】**

また王に護衛者をお願いして、ご自身同行していただくのもよいことです。ダビデが死の陰の谷にあるとき、喜んだのはこのためでした。**【詩 23:4】**モーセは神なしで一步でも進むくらいなら、むしろその立つ所で死ぬことを求めました。**【出 33:15】**兄弟よ、もし神が同行して下さりさえすれば、私たちに刃向かう者が一万あっても何を恐れる必要がありません。**【詩 3:5-8、27:1-3】**しかし神がおられね

ば、高慢な助け人も「殺された者の下に伏し倒れる」のです。【イザ 10:4】

私なども以前格闘したことがあります。そして（至善なる神の慈しみによって）、ご覧のとおり生きながらえておりますが、それでも自分の勇気を誇ることはできません。あのような攻撃に二度と会うことがなければうれしいことです。もっとも恐らく私たちはすべての危険を乗り越えたわけではないでしょうが。とはいえ、ししも熊もまだ私を食わなかった以上は、神はまた次の「割礼うけぬペリシテ人」から私たちを救い出して下さるでしょう。

あわれな薄信者よ、君は盗賊に囲まれて、
強奪されたのか。これを覚えよ、
信じて、いよいよ信仰を増す者は、
一万人にも打ち勝つ者となるが、
さもなければ三人にも勝たないことを。

こうして彼らは進んで行き、無知者はその後に従った。ついにある場所に来ると一つの道が彼らの道に合しているのが見えた。さらにその道は彼らの行くべき道と同じように真直ぐに見えたので、ここでどちらを選ぶべきか分からなくなった。二つとも前方に真直ぐに続いているように見えたからである。そこでここに立ちどまって考えることになった。こうして道のことを考えていると、見よ、一人の肌は黒いが、ごく明るい衣を着た人がやって来て、なぜ、こんな所に立っているのかと尋ねた。彼らは答えた、天の都へ行こうとしているのですが、この道のどちらを行ってよいのか分からないのです。その男は言った、私のあとについておいでなさい、私もそこへ行くところです。そこで二人はその男に従って、今しがたこれまでの道に合した道路を進んで行った。ところがそれは次第に曲がりくねって、志している都からそれ、やがてそれに顔をそむけてしまうほどになった。それでもなお二人は彼の後に従った。間もなく、二人共知らぬ間に網の中に引き込まれてからんでしまったので、どうしてよいか分からなかった。同時に白衣はその黒人の背より脱げ落ちた。そのとき彼らは自分たちの立場が分かったのである。それで脱け出すこともできず、そこで暫く泣きながら横たわっていた。

そのとき、基督者は仲間に行った、今こそ自分が間違っていたことに気がつきました。羊飼たちは巧言者に気を付けよと言ったではありませんか。「その隣りにへつらう者は、彼の足の前に網を張る」【箴 29:5】と賢人が言ったとおりであることが今日分かりました。

有望者 彼らはまた道をもっと確実に見出せるように、道を教えた書付をくれましたが、それを読むことも忘れて、不法な者の道を選ばなかったのです。この点でダビデは私たちより賢かったですね。「人の行ないの事をいえば、あなたのくちびるの言葉によって、わたしは不法な者の道を選びました」【詩 17:4】と言いましたから。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい